

世界子ども救援キャンペーン 「輝き探す闇～東南アジアの零細金採掘」



「世界子ども救援キャンペーン」は、大阪本社社会部・島山哲郎記者と写真部・川平愛記者を2017年7月21日から9月2日まで、フィリピンとカンボジアに派遣しました。

本団が毎日新聞社とタイアップして1979年から続けている39年目のキャンペーンです。

フィリピンやカンボジアでの「水銀汚染と児童労働」をテーマに、少人数で金を採掘・精製する零細小規模金採掘(ASGM)により、水銀中毒にむしばまれてゆく子どもたちの現状を取材しました。

ASGMの従事者は世界で最大1,500万人とされ、貧困家庭の子どもたちが有毒な水銀を使った精製作業や金鉱山での重労働で家族を支えています。

本キャンペーンの紙面展開は、「輝き探す闇～東南アジアの零細金採掘」のタイトルで、10月2日付朝刊から5回にわたる連載をはじめ、10月30日と11月11日付朝刊では見開き特集を掲載し、「世界子ども救援金」を募集しました。

🌻「報道写真展」京都、大阪で開催

報道写真展「輝き探す闇～東南アジアの零細金採掘」(カラー写真33枚展示)を次の3会場で開催しました。

2017年11月1日～12月21日、京都市北区の立命館大衣笠キャンパス平井嘉一郎記念図書館1階ギャラリー(協力・立命館大文学部、同大図書館)。

2018年2月6日～12日、大阪市北区の堂島アバンザ1階エントランスホール(協賛・堂島アバンザ管理株式会社、協力・ジュンク堂書店)。

5月11日～31日、大阪府茨木市の立命館大大阪いばらきキャンパス立命館いばらきフューチャープラザ2階OICライブラリー展示室(協力・立命館大図書館)。



深さ6メートルの穴に入って掘った金鉱石を上からつり上げてもらうクリストファー・ジュード・エドリアさん(17)＝フィリピン・カマリネスノルテ州パラカリエで2017年7月29日、川平愛撮影

水銀と金の合金をあぶって残った一粒の金を手のひらに載せる＝フィリピン・カマリネスノルテ州ホセバガニバンで2017年7月27日、川平愛撮影

世界子ども救援金贈呈先一覧表

「世界子ども救援金」は「取材地助成」「公募助成」「継続助成」の3つの助成を行いました。

●「取材地助成」(東南アジアの水銀汚染と児童労働)4団体へ総額170万円を贈呈

1. 日本ILO協議会
2. Ban Toxics
3. EDAYA

●「公募助成」6団体へ110万円を贈呈

1. マナムニ母子寮関西連絡所
2. シエラレオネフレンズ

3. 日本国際ボランティアセンター

4. ネパール・ヨードを支える会
5. ネパール震災ブリタム実行委員会
6. ラリガラス

●「継続助成」4団体へ110万円を贈呈

1. アジア協会アジア友の会
2. 国境なき医師団日本
3. 国際連合世界食糧計画WFP協会
4. 国連UNHCR協会

九州豪雨災害救援金

2017年7月5日から九州北部を襲った断続的な豪雨により、土砂崩れや河川氾濫などの被害が出たことから7月7日付朝刊で「九州豪雨災害救援金」の募集を開始しました。

9月6日に第1次分として日本赤十字社福岡県支部へ800万円、同大分県支部へ200万円、福岡県小石原焼復興事業支援金へ30万円を寄託したのをはじめ、11月3日に第2次分を同福岡県支部へ100万円、同大分県支部へ20万円、12月28日に第3次分を同福岡県支部へ50万1,151円を寄託しました。贈呈総額は1,200万1,151円になりました。



川があふれ、1階部分が埋まった民家＝福岡県朝倉市で7月7日、小型無人機で後藤由耶撮影

熊本地震救援金

熊本県を中心に発生した強い地震で甚大な被害が出たことから2016年4月15日付朝刊から「熊本地震救援金」の募集を開始しました。翌年3月末までに5,900万円を熊本県や日本赤十字社熊本県支部へ寄託しました。今年度は2018年3月に同熊本県支部へ230万円を贈呈し、今までの寄託総額は6,130万円となりました（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の贈呈総額では1億7,030万円）。

東日本大震災被災者救援金

2018年3月に第16次分として、昨年度繰越し額と併せて150万円を日本赤十字社に寄託しました。今回で寄託総額は4億6,877万2,718円となりました（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団の合計では11億3,340万256円）。

毎日希望奨学金

絵と題字・西原理恵子さん

東日本大震災で保護者を亡くした震災遺児の学業を支える「毎日希望奨学金」



学金」（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団、毎日新聞社で創設）は、7年目を迎えました。

2017年3月9日付朝刊で「奨学生募集」の社告を掲載するとともに、被災地の高校や大学などに直接照会をかけました。50人の応募枠に対して82人が応募。5月8日に奨学生選考委員会が開かれ、全員一致で82人に支給が決定しました。奨学生数は継続者と合わせて194人（高校生97人、短大・大学・大学院生79人、専修学校生18人）になり、下記のとおり支給しました。

■2017年度

4月25日、194人（4、5、6月分）6月23日支給の新規分含む）1,164万円を支給。

7月25日、194人（7、8、9月分）1,164万円を支給。

10月25日、194人（10、11、12月分）1,164万円を支給。

2018年1月25日、194人（1、2、3月分）1,164万円を支給。

小計4,656万円を支給。

■2016年度

・192人（最終数）4,626万円を支給

■2015年度

・215人（最終数）5,184万円を支給

■2014年度

・214人（最終数）5,154万円を支給

■2013年度

・240人（最終数）5,766万円を支給

■2012年度

・188人（最終数）4,554万円を支給

■2011年度

・156人、3,744万円を支給

2011年4月からの合計支給額は

3億3,684万円

大阪市のボランティア団体に配食サービス車贈呈

地域で高齢者や障害者の皆さんのために配食サービスを行っている民間団体や福祉施設などに配食サービス車「毎日ふれあい号」を贈る事業は、2017年8月31日、大阪市旭区にあかがわ生協診療所内の「ボランティア微助人（ビスケット）」に配食サービス車1台を贈呈しました。

毎日新聞読者からの寄付金をもとにした特別仕様のデベロ社（本社・水戸市）製軽ワゴン車で、今回で31台目になります。

「ボランティア微助人」は2006年4月から、見守り活動を兼ねた週3回の食事会と配食サービスを開始。約30人のボラン

ティアが曜日ごとに、診療所2階の厨房などを利用し、手作りで50～60食の昼食を用意。半分を70歳以上の独居高齢者に、診療所の車と自転車で配達していました。年々配食希望者が増えていることもあり、今回の贈呈事業に応募されました。

贈呈式では本団から代表者の小森佳子さんに記念キーが贈られ＝写真＝、小森さんは「これからも活動を通じて、地域の力になりたい」と話していました。



毎日社会福祉顕彰

福祉の向上に尽くした個人、団体を顕彰する第47回毎日社会福祉顕彰（毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団主催、厚生労働省、全国社会福祉協議会後援）は、推薦された39件の中から次の1個人2団体が選ばれました。

2017年10月11日に東京都千代田区のパレスサイドビルで贈呈式が開かれ、賞牌と賞金（各100万円）が贈られました。

◇難病患者の社会参加を後押しする作業所を開設した江頭邦子さん（67）（特定非営利活動法人「アクティブ」理事長、佐賀市）写真＝中央

◇子どもの虐待の早期発見と虐待のない育児を支援する社会福祉法人「子どもの虐待防止センター」（松田博雄理事長、東京都世田谷区）写真＝左（理事の片倉昭子さん）

◇障害者が自ら働く場を作り出す「企業授産」という独自理念で活動する社会福祉法人「北海道光生舎」（高江智和理〈ちおり〉理事長、北海道赤平市）写真＝右

47回 毎日社会福祉顕彰贈呈



● 歳末たすけあい運動

「歳末たすけあい運動」を2017年11月11日から12月22日まで実施しました。同運動に連動している「チャリティー名士寄贈書画工芸作品 入札・即売会」は、12月9日から11日まで、毎日新聞ビル地下1階のオーバルホールで開催し＝写真＝、1,873万円の売り上げがありました。歳末義援金に寄せられた977万円を加えると、総額で2,850万円となりました。

売上金と義援金は、児童福祉施設や更生保護施設などの団体に歳末慰問金として贈呈したほか、公募助成金や配食サービス車の贈呈事業、被虐待児童らのキャンプ事業など、今後1年間に実施する多彩な社会福祉事業の資金として有効に役立てます。皆様のご協力に深く感謝いたします。



● 施設児童就職予定者研修会

就職などで児童福祉施設を巣立つ中高生らを対象にした「施設児童就職予定者研修会」(大阪児童福祉事業協会アフターケア事業部、大阪府社会福祉協議会児童施設部会、本団主催、シェラトン都ホテル大阪協力)が2018年2月4日、大阪市天王寺区の同ホテルで開かれました。



昨年7月から12回にわたり、毎日放送アナウンサーや企業の協力で、「話し方セミナー」や「金融教育」、「ビジネスマナー」などの自立生活技術講習会を実施しました。生徒たちは、実社会で生き抜くすべを学ぶとともに、最終回には同ホ

テル担当者からテーブルマナーの指導を受け、府警音楽隊の演奏も楽しみました＝写真。

本団からは、1人1万円の「就職祝い金」を全就職予定者86人に贈呈。協賛企業、協力団体からも祝い品や激励の言葉が寄せられました。

● 小児がん征圧募金11団体に贈呈



毎日新聞の「生きる 小児がん征圧キャンペーン」に寄せられた「小児がん征圧募金」の贈呈式が2018年3月8日、大阪市北区の毎日新聞大阪社会事業団で開かれました＝写真。

募金は毎年、患者やその家族の支援、医療研究に取り組む団体などに配分しています。今回は、あいち骨髄バンクを支援する会(名古屋市)▽ぶくぶくばるーん(同)▽京大病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」(京都市)▽京都ファミリーハウス(同)▽日本クリニクラウン協会(大阪市)▽こどものホスピスプロジェクト TSURUMIこどもホスピス(同)▽Japan Hair Donation & Charity(同)▽守口ぶどうのいえ(大阪府守口市)▽近畿小児血液・がん研究会(同吹田市)▽しぶたね(同大東市)▽チャイルド・ケモ・ハウス(神戸市)の11団体が選ばれ、各50万円、総額550万円が贈られました。



● 新春子ども大会で歌やダンスを披露

「第49回新春子ども大会」(大阪市、同市児童福祉施設連盟、本団主催)が2018年1月28日、大阪市天王寺区の同区民センターで開かれ、大阪府内の四恩学園など8児童福祉施設で暮らす約300人が参加しました。

子どもたちは施設の仲間とともに、日頃から練習してきた劇や歌、ダンスを披露＝写真。緊張しながらも懸命に頑張る姿に、観客は惜しめない拍手を送りました。司会進行を朝日放送のアナウンサーが務め、京セラドキュメントソリューションズ

の有志バンドもボランティア出演し、会場を盛り上げました。

会場ロビーには絵画コンクールの作品展示もあり、優秀作品の表彰も行われました。



● 「公募助成金制度」で220万円を贈呈

国内外の地域で福祉活動に取り組む団体や、先駆的事業を展開する団体などに、一般公募で助成する制度です。次の12団体に総額220万円を贈呈しました。

〈公募福祉助成金〉

4団体に60万円を贈呈

1. きつおんサポートネットワーク(名古屋市)
2. 話し相手ボランティア「ひだまり」(兵庫県三田市)
3. すいた障害当事者連絡会(大阪府吹田市)
4. 大阪YWCA点字子ども図書室(大阪府吹田市)

〈シンシア基金助成〉

2団体に50万円を贈呈

1. 日本介助犬協会(愛知県長久手市)
2. 兵庫介助犬協会(兵庫県西宮市)

〈世界子ども救援金助成〉

6団体に110万円を贈呈

* 詳細は1面下段を参照ください

● 囲碁セットなどを児童養護施設へ贈呈

大阪市内で開かれた「第50回歳末たすけあいチャリティーチャレンジ棋力認定戦・指導基金会」(日本棋院、スポーツニッポン新聞社主催、本団後援)の収益金をもとに2018年3月5日、囲碁セットや囲碁を題材にした人気漫画「ヒカルの碁」全23巻、所蔵の絵画を広島県内の広島修道院など3児童福祉施設に贈呈しました。

同施設の山村拓哉施設長は「子どもたちが漫画を読んで囲碁に親しんでくれたらうれしい」と話していました。

他に、広島市の広島修道院きずなの家、廿日市市の光の園摂理の家にも贈呈しました。

専門点訳・音訳講習会

視覚障害者が使用する外国語や理数、楽譜、東洋医学などの専門書を点訳、音訳するボランティアを育てようと「点字毎日」創刊65周年記念事業として1987年に始まりました。

当時、近畿地方では、毎年10人前後の視覚障害者が大学に進学する一方で、点字の教科書や専門書の点訳が少なく、毎日新聞社点字毎日と、本団が主催し、日本ライトハウス情報文化センターの協力で開講したのが始まりでした。現在は同センターと本団の共催で講習会を開いています。

30周年を迎えた2017年度は図・表・グラフ等を音訳する「視覚的資料音訳コース」と、教科書・教材を中心とした「教科書・教材点訳コース」の2つのテーマで、6月7日から9月15日まで15回の講習会を開きました＝写真(同センター提供)。これまでの修了者は1,800人を超え、受講者は近畿各地の点字図書館やボランティアグループなどで活躍しています。



ハチ北林間ホーム

児童福祉施設で暮らす子どもたちに、自然の中で夏休みを楽しんでもらう「第50回ハチ北林間ホーム」が2017年8月8日から10日まで、兵庫県香美町のハチ北高原で開かれました。大阪市、同市児童福祉施設連盟、本団の共催で、入舟寮など同市が管轄する9施設の小学6年生40人が参加しました。

異なる施設の3～4人の子どもたちと施設職員のリーダーで班別に行動。川遊びや鉢伏山(1,221^m)への登山＝写真＝など、大自然を満喫し、3日間の共同生活を楽しまました。



交通遺児らを励ます「そよかぜ杯ボウリング大会」

大阪、奈良、兵庫の各府県から、交通遺児とその家族108人が参加した「第26回そよかぜ杯ボウリング大会」(大阪交通遺児を励ます会、本団主催)が2017年6月25日、大阪市北区の桜橋ボウルで開かれました＝写真。

25年以上にわたり、交通遺児への募金活動を続ける大阪府ホンダ会の役員も参加され、会場は大いににぎわいました。ゲーム終了後は昼食会と表彰式などが行われ、参加者同士がなごやかに交流しました。



全国盲学校弁論大会全国大会

第86回全国盲学校弁論大会全国大会(全国盲学校長会、毎日新聞社点字毎日、毎日新聞大阪・東京・西部社会事業団主催)が2017年10月6日、広島県立広島中央特別支援学校体育館で開かれました。

全国7地区の予選を勝ち抜いた9人が出場し、「Ame(あめ)」と題して発表した静岡県立浜松視覚特別支援学校高等部専攻科理療科2年の望月達哉さん(28)が優勝し、文部科学大臣優勝旗や点字毎日杯、毎日新聞社会事業団杯などが贈られました。

ご寄付の方法

郵便振替でのお振り込み

郵便局に備え付けの払込取扱票(振替用紙)に金額、住所、氏名、連絡先などの必要事項をご記入のうえ、お振り込みください。送料(手数料)無料の払込取扱票(振替用紙)を必要な方は本団までご請求ください。

- 郵便振替口座番号 00970-9-12891
- 加入者名(送り先)
毎日新聞大阪社会事業団

現金書留でのご送金

〒530-8251(*住所不要)
毎日新聞大阪社会事業団

- *「社会福祉に」「毎日希望奨学金に」「世界子ども救援金に」など寄付項目を通信欄に必ずお書きください。
- *金額とお名前を毎日新聞の地域面に掲載させていただきまます。匿名や掲載不要を希望される方は、通信欄に「匿名」などお書きください。

ご持参

直接、本団事務所へ。
大阪市北区梅田3-4-5毎日新聞ビル16階(JR大阪駅から西へ徒歩8分)。
平日は10時～18時まで受付(土、日、祝日は休み)。

お問い合わせ先

公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団
電話 06-6346-1180
ファクシミリ 06-6346-8681
E-MAIL: mainichi-osj@sirius.ocn.ne.jp
ホームページ http://www.mainichi.co.jp/osaka_shakaijigyo/

毎日新聞大阪社会事業団へのご寄付は、所得税および法人税の優遇措置が受けられます。また、ご遺産、遺贈された財産についても相続税はかかりません。

なお、ご遺贈につきましては、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」の提携をしています。詳しくは同行まで。

編集後記 51

- ◆^{ピンチラン}平昌五輪スピードスケート女子500^mで金メダルに輝いた^{コシノナオ}小平奈緒選手が、五輪3連覇を狙い、銀メダルに終わった韓国の李相花選手を^{イサンファ}抱き寄せるシーンが感動をよんだ。
- ◆10年近くライバル関係にあり、後塵を拝してきた小平選手にとって、李選手はずっと上にいた存在ながら、共に競い、学び、励まし合ってきた良き友人でもあった。
- ◆自国開催という重圧からも解き放たれ、涙ぐむ李選手に寄り添い、「私は今もあなたを尊敬しているよ」と語りかけた小平選手。
- ◆両国の国旗をまとった二人が、言葉や文化、政治などの壁を越えて友情を育むことができることを改めて気づかせてくれた。(和)